



地域日本語支援ニュース こだま 第 258 号

2014.7.10



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

====目次=====

1■日本語教育メール相談から■

2■進学進路ガイダンス情報■

高校進学説明会情報(9月・10月)*今回は更新情報はありません

=====

1■日本語教育メール相談から■

連体修飾にどう取りくむ？

～特徴を生かして楽しく会話～ その1

AJALT では、各地域で在住外国人に日本語支援を行っている方々からの日本語支援に関するご相談をメールで受け付けています。教室運営や対象別指導法、日本語文法など、皆様の日々の活動における疑問に、AJALT のベテラン教師が丁寧にお答えいたします。

今回は、最近頂いたご相談の中から、下記のご相談と回答をご紹介します。皆様もどうぞ、お気軽にメール相談をご利用下さい。

-----☆☆☆☆☆☆☆☆

<ご相談内容>

地域の日本語教室のボランティアに携わっていますが、連体修飾の教え方に苦労します。文法説明はどうしても、中学・高校で習う国文法のような教え方になってしまいます。また、クラス活動はできる限りコミュニケーションにしたいと考えていますが、単調な練習になってしまい、よいアイデアが思いつきません。どうしたらよいでしょうか。

<回答>

*回答を2号に分けて掲載します。今号は「その1」をお届けします。

◆誤用・非用をなくすには……◆

連体修飾の使用でよく見られる学習者の誤用には以下のようなものがあります。

1) 名詞を修飾するときに「の」を入れてしまう。

- ・違うの例を言いましょう。(→違う例)
- ・会ったことがないの人。(→会ったことがない人)

2) 連体修飾節の「が」を「は」にしてしまう。

- ・母は作ったカレーライスです。(→母が作ったカレーライスです。)

3) 非用

- ・3つのタイプの人があります。いつも遅れます。いつも遅れません。
それから、遅れたり遅れなかったりします。

(→人には3つのタイプがあります。いつも遅れる人、いつも遅れない人、それから、遅れたり遅れなかったりする人です。)

1) と 2) については、間違いが定着してしまっている学習者の場合は、うまく直さないと矯正練習が大変なストレスになって、日本語の学習がイヤになることがあります。「間違い」だけを見ずに「人」を見て、直したくても直さずにさりげなく指摘するだけにとどめることも時には教える以上に大切なことです。下手な矯正で嫌いにさせるよりも「好きこそものの上手なれ」です。

3) 非用というのは使わないということです。誤用以上に、連体修飾節を使えない、使わない学習者がたくさんいます。

その原因は、次のことにあるように思います。

- ア) どんなときに使ったらいいかわからない(概念がわからない)
- イ) 動詞の活用形に自信がない・活用が苦手
- ウ) 連体修飾の形に慣れていなくて使えない

ですから、この連体修飾節を教えるまでのクラスで、学習者が動詞の活用形をある程度正しく、すらすらと言えるようになっていることが非常に大切だと思います。地域の日本語クラスでは、毎回出席できない学習者、なかなか習得できない学習者、間違った活用が定着してしまっている学習者もいると思います。その場合は、ホワイトボードの右側に代表的な動詞の4つの活用形

(例) する・しない・した・しなかった、
を書いてあげ、参照できるようにすると思います。

正しい活用がわからない学習者、苦手な学習者にとっては、連体修飾の授業は大変辛いものかもしれません。大らかに、笑顔で、どんなにできなくても OK、といったアプローチで指導し、この連体修飾の授業をきっかけに、形の大切さを再確認し、学習しようというやる気を芽生えさせるような授業をしてあげてください。

◆連体修飾の概念をつかむ◆

では、連体修飾という概念をつかむためにはどうしたらいいでしょう。

“日本語では、名詞を飾る言葉は、その名詞の前にくる”

世界の言語を見ると、多くの言語が修飾語前置だそうですが、連体修飾節では後置の言語が多いそうです。

日本語が前置であること。このことが、連体修飾節のイメージがつかみにくい、作りにくいといったことにつながっている場合もあるのではないかと思います。したがって、日本語は普通、飾る言葉は飾られる名詞の前にくる、ということを書き、視覚的に、名詞の左側に修飾語がくることがアピールすることも、ポイントになりうると思います。

例えば、「かばん」と右側に書き、その左側にそれぞれ「日本の」「大きい」「きれいな」「チャンさんが買った」……などの飾る言葉を次々に書いていくのです。

視覚的イメージとして焼きつけるのです。

(このメールでは、「かばん」を■、飾る言葉を□で、表現してみます。)

□ ■
□ □ ■
□ □ □ ■
□ □ □ □ ■
□ □ □ □ □ ■

そして以下のような質問をして答えてもらい、修飾語と被修飾語の位置関係を体感してもらうことも有効です。

Q 誰のかばんですか。

Q 黒いかばんですか、白いかばんですか。

Q 誰が買ったかばんですか

Q チャンさんが買ったかばんですか、もらったかばんですか。

Q どこで買ったかばんですか。

Q いつどこで誰が買ったかばんですか。

以上、ご参考にしていただければ幸いです。

(回答:公益社団法人 国際日本語普及協会所属日本語教師 松岡浩彦)

★ ☆ 特徴を生かして楽しく会話 その2 もお楽しみに! ☆ ★
